

大阪は「まち」がほんまにおもしろい



# 鞍作氏の里・加美郷ものがたり ～正覚廃寺から鞍作寺、奥田邸まで～

古代には崇神派・物部氏の所領地だったという加美郷界隈。物部氏滅亡後は、百済からの渡来系氏族・鞍作氏が集住し、ここは日本で最初の尼僧・善信尼や、奈良時代最高の仏師として知られる鞍作止利のゆかりの土地となりました。中世の遺構としては楠木正成が訪れた正覚廃寺があり、応仁の大乱を巻き起こした戦国大名・畠山政長の墓、近世大坂の大庄屋の面影を現代に伝える重要文化財の奥田邸など、古代から中世、近世と、1500年にも及ぶ加美郷の歴史に迫ります。

## 1 陽南寺

真宗大谷派の末寺で、寛永16年(1639)、本山の宜如上人より寺号を許されました。開基は不詳ですが、かつては正覚寺塔頭の1つと伝えられ、或いは南之坊の跡ではないかともいわれています。境内から文明15年(1483)と刻まれた五輪塔が発見されています。また隣接する旭神社境内からは僧が合掌したように見える珊瑚製の長さ約3センチの煙草のパイプに似た物が118個も出土しました。中央に貫孔が器用にあけられており、紐で連ねて数珠に使ったのではないかとされています。

## 2 正覚廃寺(東之坊)

天長2年(825)、弘法大師の創建といわれています。本尊は弘法大師自作の十一面観音菩薩と伝えられ、境内は四町四方あって二十一間四面の観音堂、金堂、講堂、六時堂、山門、回廊に、東之坊、中之坊、池之坊などの六坊の支院を有する大伽藍であったといわれています。幅広い層の信仰をあつめ、楠木正成も武運長久祈願で、何度も参詣したといわれています。しかし、明応2年(1493)の正覚寺の合戦により、焼失し廃寺となりました。その後、慶長12年(1607)に高野山の僧・祐智が七間四面の堂を建て再興しましたが、これも大坂夏の陣で焼失。天和年間(1681～1684)に僧・実誓が再び復興し、正覚寺旧六坊のうち東之坊だけが浄土宗知恩院の末寺として現存し、前述の十一面観音菩薩を本尊としています。門前に「正覚寺遺蹟」の碑が建っています。

## 3 奥田邸

奥田家は楠木氏の流れを汲み、代々、河内国茨川郡鞍作村の庄屋を務め、付近10ヵ村の大庄屋として苗字帯刀が許された豪農といわれています。大坂の陣で家康の軍勢が大坂城を攻める際に、ここで食事を摂ったという逸話があります。約1000坪(約3300平方メートル)もの広大な敷地に、江戸時代初期に建てられた主屋をはじめ、表門、乾蔵、旧綿蔵、納屋、米蔵(北棟)、米蔵(南棟)などがあり、この7棟は昭和44年(1969)、国の重要文化財に指定されています。※毎月第4日曜日のみ、邸内の見学が可能です(有料)

## 4 畠山政長の墓

管領・畠山持国(1398～1455)の嫡子・義就(1437?～1491)と甥・政長(1442～1493)との間で、家督を巡って争いが起き、畿内各地で戦乱が相次ぎました。文明14年(1482)、菅田に拠点を置いた義就に対して、政長は10代将軍・足利義植(1466～1523)と共に正覚寺に拠点を置いて対陣。義就が病死すると、政長は河内平定に乗り出しますが、明応2年(1493)、義就の子・義豊(1469～1499)や細川政元(1466～1507)らに襲われて敗北、火を放って自害しました。これが世にいう「正覚寺の合戦」です。政長の墓は東之坊近くの住宅地の奥にひっそりと佇んでいます。その傍らにあるのが、明治時代の軍人で、学習院院長などを務めた乃木希典の景仰碑です。

## 5 鞍作廃寺跡

元は河内国茨川郡鞍作村に属します。平安時代中頃の「四天王寺御手印縁起」によると、古代、この辺りは崇神派(廃仏派)の物部氏の領地でしたが、物部氏が蘇我氏に滅ぼされた後、物部氏は没収されて四天王寺領となりました。その後、当地には百済からの渡来系氏族・鞍作氏の司馬達等、その子の善信尼と多須那、孫の止利が住み、この善信尼は「日本書紀」によれば日本最初の尼僧で、鞍作寺はその善信尼が開基したと伝えられます。文禄4年(1595)、現・鞍作寺(加美鞍作2丁目)が開基しますが、そこには鞍作廃寺のものと思われる巨大な礎石1個が保存されているほか、付近からは飛鳥時代の単弁蓮華文軒丸瓦も出土しています。止利は法隆寺金堂の本尊金銅釈迦三尊像(国宝、ユネスコ認定世界遺産)、飛鳥寺の金銅釈迦如来坐像(国の重要文化財)などの製作者として知られています。

## 6 がんこ平野郷屋敷・くらしの博物館

元は鞍作村の豪農・辻元家の屋敷で、江戸前期の建築といわれています。辻元家は、江戸時代より百姓代、年寄、庄屋を務め、明治以降は加美村の村会議員や村長などを務めた家柄でした。重厚な門構え、広々とした奥座敷、白壁の土蔵などに往時の雰囲気を感じられます。庭園は万博公園の日本庭園を手がけた木戸雅光氏の作で、70種類ほどの樹木を用いています。中央に流れる小川は小鳥たちの水飲み場となっており、10数種類の野鳥が観測されています。また、衣裳蔵では、平野町ぐるみ博物館のひとつ「くらしの博物館」として、辻元家が代々使用してきた道具、仕器の他、兆殿司作「飛鯉之図」、伊藤若冲作「水鳥」などの掛け軸、骨董品の数々を展示しています。

## 7 菅原神社

創建年代は不詳です。もとは天児屋根命を祀る「橋宮」と称した古社でしたが、のちに天神社と称して、菅原道真公を主祭神として祀りました。鬼門除けの天神さまとして古くから崇敬され、参拝者は境内の土砂を頂いて持ち帰り、自宅の鬼門に撒いておく厄除けになるとする風習があります。境内奥には、鞍作村・南鞍作村・鞍作新家村の3ヶ村を潤した「三鞍作用水樋門記念碑」があります。明治40年(1907)に元南鞍作村の天照皇大神社、明治41年(1908)に元鞍作新家村の天満宮(通称・川べりの天神)を合祀。この川べりの天神の社殿は、自然倒壊しましたが、石の鳥居、灯籠等や大木の残る境内地は保存されていたので、戦後の昭和24年(1949)に新社殿を造営し、新家天満宮という社名で再建されました。